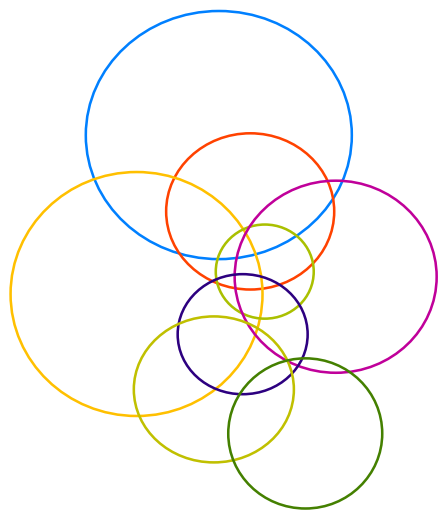




2022.10.2(Sun) 「地域と市民活動フェスタ ～オール日向祭～」



協働のまちづくり NEWS



number 41

特集

ありがとう30周年！ つながろうHIECA！

～ 記念イベント「国際コミュニティフェスタ」開催 ～

2023
3月号



特集

HIECA

ハイカ ありがとう30周年！ つながろうHIECA！

令和5年2月26日に開催された「国際コミュニティフェスタ」。

盛りだくさんのメニューで交流した「30周年記念イベント」の様子をお知らせします。

日向といえば、ひよつとこ踊り
笑うHIECAには福来たる！

テンテコテン、テンテコテン、テンテコ、テンテコ、テンテコテン♪ このお囃子を聴けば自然と体が踊り出す。そうです！日向といえば「ひよつとこ踊り」。

第1部「ウェルカムイベント」では、参加者の皆さんのお腹が豚汁とおにぎりの振る舞いで温まった頃合に、橘ひよつとこ踊り保存会が登場。市の無形民俗文化財に指定されている「永田のひよつとこ踊り」。現在では全国各地に「連」と呼ばれる愛好家グループができていますが、永田のものは正當な里神楽の系列に属するもので、それを受け継いでいるのが保存会の皆様です。

コロナ禍で日向ひよつとこ夏祭りも中止された中、外国人の皆さんに「日向の代名詞」に触れていただきたい思いで企画しました。参加者の皆さん、笑顔、笑顔。改めて、ひよつとこ踊りの持つパワーに嬉しい気持ちになりました。

第2部「30周年記念イベント」は、文化交流センター小ホールに会場を移し、ここ10年間を振り返るオープニングムービーからスタート。協議会イベントに何度か参加されている方も多く、懐かしそうにスクリーンを見つめる姿が印象的でした。

那須久司会長の主催者あいさつでは、お得意のジョークも交えながら、「SNSの発展などにより『個』が発信される中、コミュニティや人のつながりが変わってきている。多様性を大事にしていかなければならない時代になっており、この新しい時代にどのような関係性を構築していくのか考え合いたい。今日の意見交換をその契機としたい」と述べられました。

また、十屋市長からは「協議会の皆様と共に、『外国人に優しいまちづくり・外国人が安心して暮らせる環境整備』にも取り組んでいきたい」とごあいさつをいただきました。

そして、この日のために送っていただいた第10代国際交流員アールさんのビデオレター上映。とても元気に活躍されている様子で、チーズまんじゅうが恋しいそうです。



▲HIECAの命名を記念して作成した缶バッジ。参加者にプレゼント。



日向市国際交流 まちづくり推進 協議会

市民の皆さんに
国際理解と国際
親善を深めるた
めの情報を提供

するとともに、国際交流に関する事業を推進することを目的に、平成4年度に発足。以来、歴代の国際交流員を交えて様々な活動に取り組み、市民の異文化理解・国際交流の推進に寄与いただいています。「Hyuga International Exchange and Community Association」の頭文字をとって愛称「HIECA」決定！

これからもHIECAらしく 国際交流のまちづくりを！

ここからは、竹下副会長の軽快な司会進行の下、参加者の皆さんが7グループごとに交流を深める時間に入りました。

まずは、フリートーク。「日向（日本）で驚いたこと」というお題では、「自販機で温かい飲み物がある」「家に畳がある」「ごみ袋が無料」「ごみの分別が細かい」といった声が聞かれました。

また、「日向の好きなところ」というお題では、「海、山、人」「晴れの日が多くて、人が優しいです。ひょっとこ踊りやつてみたい！」といった日向ならではのポイントのほか、「日向市の国際交流が大好きです。おかげで日本を楽しんでいます」という嬉しい声もいただきました。

途中、外国人参加者が「着付け体



験」のために衣装替えに行かれる場面がありました。綺麗な髪飾りをつけた浴衣姿で登場すると、会場から「わあ〜」というため息交じりの歓声が上がります。一気に華やかな空気になりました。

着付けは、坂東流師範の江頭凌子様ほか皆さんの全面的な協力をいただきました。本当にありがとうございました。

そして、グループ対抗カラオケ大会へ。トップバッターのグループが「未来へ（キヨロ）」を熱唱し、いきなり95点というハイスコア！

後続の曲も、みんなが知っている曲から最近流行りの曲まで、さまざまな曲が歌われました。

何人かで歌ったり、1人で歌ったりの違いはありましたが、どのグループも全員で前に出て、手拍子で応援する姿が見られ、和やかな雰囲気。大会が盛り上がりました。

曲後には、国際交流員のデイヴィ

ッドさんがインタビュー。外国にもカラオケ文化が広がっていて、日本の曲が人気なんだそうです。「こっちに来る前から、日本の曲を歌ってました」というコメントもありました。

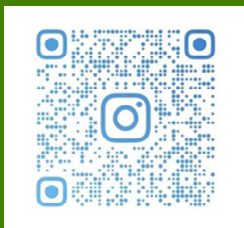
最後は、メッセージボード「ハイカの木」の前で全員で記念撮影。別れを惜しむように参加者同士で写真を撮り合う姿に、今後もこうした交流を広げていきたいと感じました。



今回の記念イベントは、令和3年度から協議会で検討を重ねてきました。その中で大切にしたいコンセプトは、「これまでの国際交流は日本人が外国人の方と交流を楽しむ趣旨だったけど、これからは外国人の方が地域の皆さんと交流することを大事にして、人と人のつながりをつくっていききたい」というものでした。

HIECA（ハイカ）は、これからも親しみやすい国際交流のまちづくりを目指していきます。

HIECA Instagram



アカウント：hyugalife

ぜひフォローしてください！

ともに取り戻しましょう！

地域活動の活性化！

日向市区長公民館長連合会（以下、区公連）は、市内の区長公民館長で組織されており、現在、90の自治会（区）（以下、区）で構成されています。コロナ禍の中で地域でもさまざまな活動が自粛されてきましたが、区公連では、この一年間、感染対策を行いながら、各種行事を行ってきました。

自治公民館経営研修会、
4年ぶりに開催！

8月27日、「令和4年度日向市自治公民館経営研修会」が大王谷コミュニティセンターで開催されました。コロナ禍により4年ぶりの開催となった今回は、42名の区長さんに参加いただきました。



長と今村教育長を来賓にお迎えし、講座や事例発表で学びを深めました。

講座では、宮崎県砂防ボランティア

ア協会の方々に講師に「土砂災害防止について」お話いただきました。災害に遭わないために、そして、万が一災害に遭っても被害を軽減するために私達が『今』するべきことを、改めて学び、考えました。

また、事例発表では、南町区の日高憲志区長から「思いやりの街ひょうが南町区の報告」というテーマで、コロナ禍でも続けてこられた取組報告のほか、まちづくりに対するご提案をいただきました。

最後に、地域コミュニティ課から区・公民館活動に関する市の業務について説明を行いました。

質疑応答では、区加入率が減少傾向にある中での加入促進のあり方やアパート世帯等への加入促進方法などについて多くのご意見をいただきました。

区長さん方は、地域の絆や地域活動の活性化のために日々悩み、考えながら活動されています。市も引き続き地域活動を支援していきます。

[大会結果]

○団体の部

順位	区名	打数
優勝	切島山1区	(201打)
準優勝	石並区	(201打)
第3位	庄手区	(202打)
第4位	福瀬区	(204打)
第5位	幸脇区	(205打)

○個人の部（敬称略）

順位	氏名(区名)	打数
優勝	橋本 康央 (庄手区)	(30打)
準優勝	柏田 英子 (永江区)	(31打)
第3位	白川 静雄 (幸脇区)	(32打)



▲団体優勝の切島山1区チーム

手に汗にぎる大接戦！
グラウンドゴルフ大会

10月13日、「第25回自治公民館対抗グラウンドゴルフ大会」が日向岬グリーンパークで開催されました。当日は、市内47区から47チーム、総勢約280名が参加。秋空の下、団体の部及び個人戦で競技しました。

結果は別表のとおり。団体の部は同打数でしたがホールインワン数により見事、切島山1区が優勝！また、上位3チームはわずか1打差と非常に接戦となりました。どのチームも和気あいあいというラウンドしながら交流を深めており、あちこちから参加者の皆さんの笑い声が聞かれました。やっぱり、笑顔で交流できる機会は大事ですね！

区に加入しましょう！

区は、同じ地域に住んでいる人たちが、さまざまな活動を通してお互いを助け合う組織です。こちらの申込フォームから加入できます。





オール日向祭

2022 10/1(土)~10/2(日)

日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム及び市民活動支援センターに登録している市民活動団体が参加し、団体同士の交流及び市民へ団体の活動紹介等を行う「地域と市民活動フェスタ 〜オール日向祭〜」が3年ぶりに開催（同実行委員会主催）。1,300人超の来場者で賑わいました。

市民
活動

3年ぶり、日向の「たから」再発見！ あなたの楽しいがきつとある

10月1日

登録団体「日向市国際交流市民団体すくらんぶる」企画で前夜祭を開催。

市内の在住外国人の方と一緒に母国料理やお菓子作りをして、作った料理を試食しながら交流を深めました。

10月2日

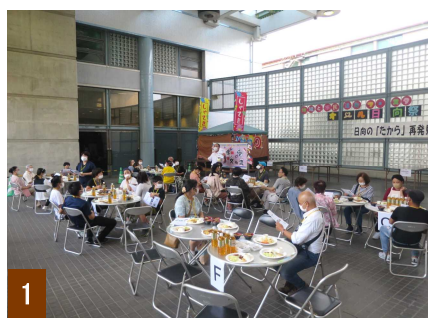
中央公民館ホールでの開会行事では、木村礼子実行委員長の主催者あいさつの後、みやざき犬「むうちゃん」と「かあくん」のダンスでステージイベントがスタート。

登録団体によるマンドリン演奏、日舞、詩吟等の披露や天翔獅子のパフォーマンスで盛り上がりました。同研修室で「SDGsエコ企画」として制服リユース、新聞紙でエコバック作成等が行われたほか、市内の保育園・幼稚園児の作品を集めた「ひまわり絵画展」が会場に彩りを添えました。

文化交流センター大ホールでは、登録団体や各まちづくり協議会等の団体紹介・活動内容を展示したパネル展に加え、「呈茶とお点前体験」「生け花体験」等の体験型コーナー、「事例発表コーナー」「SL模型」「おもちゃ病院」等もあり、子どもから大人まで楽しめるコーナーが目白押し。

市からは、「市長とおしゃべりコーナー」「市議会なんでも相談コーナー」を開設し、子育て世代や高校生をはじめ、さまざまなご意見をお聴きしました。また、パネル展では、地域コミュニティ課、防災推進課、建築住宅課空家対策推進室が出展・参加し、各種事業の啓発を行いました。

文化交流センター交流広場では、栄養士会によるふるまいやマルシェ、雑貨市等が催され、参加者で賑わいました。



1



2



3



4



5

ア ル バ ム

1. 前夜祭「すくらんぶる」による「料理 DE 国際交流」
2. ステージイベントのひとつ
3. 「ひまわり絵画展」(日向市全市緑花推進協議会)
4. 呈茶でちょっと一服。
5. 登録団体「おもちゃ病院」も大忙し。

持続可能な日向を！

令和3年度からリスタートした「ひまわり塾 (SDGs編)」。
人口減少・超高齢社会が進展していく中で、持続可能なまちづくりを目指すために地域の現状や課題を知り、解決への手法を学びながら、将来の地域づくりの担い手となる人材の育成に取り組んでいます。

今年のメイン講師もSDGs コミュニケーターの難波裕扶子さん(株式会社シンク・オブ・アザーズ 代表取締役)。日向市の現状にSDGsの視点を当てはめながら、まちづくりに

ついて考えていきました。
視察やワークショップも交えながら、「持続可能な日向市をつくる」ための知識や手法を学んでいった全8回の講座を振り返ります。



🔍 おさらいしましょう！「SDGs」

「SDGs (Sustainable Development Goals) : 持続可能な開発目標」は、2015年9月25日に国連総会において全会一致で採択された、世界の変革のための行動計画のこと。17の目標、169のターゲット、232の指標から成り立っており、世界の全ての国々、全ての人が「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済、社会、環境をめぐる広範な課題を統合的に取り組む2030年までに達成すべき世界共通の目標です。

全8回の講座でしっかり学習 メニューもボリューミー

令和4年度の塾生は18名。一般市民や民間企業の方、区長さんや市職員など多様なメンバーで構成されました。

第1回講座は、難波さんが講話やカードゲームを行い、SDGsの基礎知識や現状について塾生に分かりやすく説明してくださいました。

カードゲームでは、それぞれの目標に向かって「経済・環境・社会」の状況をリアルタイム、かつ、感覚的に学習でき、塾生から「私たちが『あたりまえ』に感じていることが、誰かの犠牲によって得られていた『幸せ』なのかもしれない」と意見が出るなど、普段の何気ない行動を振り返るきっかけになりました。

第2回講座は、市の総合政策課、観光交流課、環境政策課、人権・同和行政推進室の各担当職員に協力願ひ、総合計画、サーフタウン日向、ごみ処理、パートナーシップ宣誓制度について話していただきました。

普段なかなか聞くことがない日向市の施策や取組などに塾生はしっかりと耳を傾けながら、日向市をより良いものにするためにはどのようにすればよいのか、熱心に質問が繰り返されました。

第3回講座では2020年7月に「SDGs

宣言」をされた旭建設株式会社の黒木繁人代表取締役、クリーン日向の鈴木睦代様、日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム協議会会長の足立佳代様をお招きし、講義いただきました。

企業活動を通じて社会課題解決やSDGsの達成に貢献されたお話、廃油を利用したキャンドル作りのワークショップ、男女共同参画社会の啓発などを通して、経済・環境・社会の各分野において「日向市のありたい将来像」をイメージした塾生も多かったようです。

最終プレゼンでプラン発表 さあ、まちづくりで実践へ！

第4～7回の講座では、これまでの講座で学んだことを4つのグループに分かれて振り返り、最終プレゼンテーションに向けた準備に取り組みました。職種や年齢もさまざまなメンバーがここで一気に友情も深めていきました。

最終プレゼンでは、4つのグループが、それぞれが見出した課題や具体的な解決策について、「若者主体による地域コミュニティの形成」、「アプリを使った日向市への移住支援」など、魅力的で実行性のあるプランを発表しました。全8回の講座をとおして、塾生もとても貴重な経験をすることができました。

ひまわり基金市民活動助成事業

日向市ひまわり基金事業推進協議会（以下、協議会）は、公益的な市民活動に取り組む団体の活動を促進するため、市民活動団体が市内で行うまちづくり、人づくり若しくはものづくりのための事業又はそれらに関する学習会、研修会等に対して、経費の一部を助成する「市民活動助成事業」を行っています。

◆助成率 事業を実施するために必要な助成対象経費の4分の3以内

◆助成額 上限 15 万円



◆対象事業

対象事業	①地域社会に直接還元される事業又は広く一般市民に公開される事業であること。 ②団体又はグループの運営費的な事業でないこと。 ③5人以上の会員で組織された団体によって実施される事業であること。
対象事業の内容	①花いっぱい運動等、美しいまちづくりを推進するための環境美化事業 ②住民間の交流、ふれあいづくりなどを目的にした地域づくり事業 ③地域住民の健康づくりや青少年の健全育成を目的とした事業 ④住民の芸術、文化活動を通じてのまちづくり事業 ⑤各種の学習会、研修会、講座、講演会、シンポジウム等の開催事業 ⑥自然環境の保護や環境保全等を目的とした活動推進のための事業 ⑦その他、市民活動団体自らがまちづくりを行っていくための事業

※ほかにも要件あり。申請を希望する場合は、事前に協議会事務局（地域コミュニティ課）までご相談を。

まちづくり事業に関する助成・支援メニューあります！

日向市市民まちづくり支援事業

市は、元気で活力あるまちづくりを推進するため、市民の皆さんが自ら企画・運営するまちづくり事業を募集し、日向市市民まちづくり支援事業審査会（以下、審査会）の審査を経て選考された事業に対して補助金を決定・交付します。

応募できる事業等については、下表のとおりです。
 その他、応募要件、募集要項、提出書類など、詳しくは市ホームページをご確認ください。

◆応募できる事業等について

事業の種類	内容	補助率	補助限度額
地域づくり事業	コミュニティの活性化及び醸成につながる事業（祭り、運動会、交流会、祝賀会の類は除く。）	補助対象経費の3/4以内	50 万円
地域のにぎわい創出事業	市内全域を対象とする祭り、スポーツ大会、講演会、シンポジウム、文化芸術の発表会、展覧会、観賞会等のイベント及び文化芸術として、将来に継承すべき伝統的イベント	補助対象経費の1/2以内	50 万円

※申請を希望される方は、事前に審査会事務局（地域コミュニティ課）までご相談ください。





ブルーベリー葉の収穫（令和4年10月）

みえふるちゃ

まち協

塩見発

商品名を「美笑福茶」にリニューアル！

平成24年から宮崎大学と連携し、ブルーベリー栽培に取り組んでいる塩見まちづくり協議会。このたび、栽培開始から10年が経ったのを機に、看板商品「ブルーベリー葉とへべすのブレンド茶」の商品名とパッケージを一新しました。

新しくなった
ブルーベリー&へべす
ブレンド茶はいかがですか



マルイチ財光寺店で販売中

塩見まちづくり協議会（以下、塩見まち協）では、塩見産ブルーベリー葉茶と、天日干しした「へべす」の果皮を混ぜ合わせたブレンド茶を販売しています。

ブルーベリーを長年にわたって研究されている宮崎大学によると、ブルーベリーのお茶には、ポリフェノールの一種である「プロアントシアニジン」が多く含まれているということが言われています。

塩見まち協では、栽培から10年が経ったのを機に、このたびパッケージをリニューアルしました！

特にこだわったのが商品名。「ブレンド茶を飲んだ方が、美しく、笑顔あふれ、福が来ますように」という願いを込めて、「美笑福茶」（みえふるちゃ）とネーミングしました。

また、内容量や販売先も変更。マルイチストア財光寺店（レジ横「お土産品コーナー」）にて、お手頃価格で買い求められます。

地域資源を活用したまちおこし
やっど！403（塩見）！

4年ぶりの「塩見ウォーク」、大盛況でした！（R5.2.26）



今回も鹿児島市の東川隆太郎さんの案内のもと、「土地の名前（小字）のナゾに迫る」をテーマに、中村区を中心とした約4.5キロのコースを歩きました。当日は170名の参加者で大賑わい（スタッフ含む）。参加者からは「塩見の良さを再確認できてよかった」との感想もいただきました。

ブレンド茶販売は、自主財源の確保や地域資源・地域の魅力を再発見していただくために行っているものですが、この他にも「403カレンダー」の販売も行っています。

令和5年版の403カレンダーには、地域に残ることばも【宝物】だとの思いから、「塩見で使われている言葉（塩見弁）」を小断とともに掲載し、大変好評を得ています。

地域資源を活用したまちおこし、やっど！403（塩見）！、塩見まち協にご期待ください！

細島^発 3年ぶり、細島みなと祭り 胸が高鳴る、太鼓台！

令和4年7月15日(金)～17日(日)の3日間、「日向市三大祭り」のひとつ「細島みなと祭り」が開催されました。このお祭りは、明治22年の町村制施行により細島町ができたお祝いが起源。細島地区が一体となって開催されますので、もちろん、HOSOSHIMAまちづくり協議会も全面的に協力します。コロナ禍で3年ぶりとなった今回は、感染防止対策のため規模縮小による開催となりましたが、細島を挙げて大いに盛り上がりました！

平岩^発 平岩といえば、花(けい)の 県知事表彰を授賞！

ご覧になりましたか、「金ヶ浜ビュー園地」に可憐に咲き誇った「ネモフィラ」を。テレビや新聞等でも取り上げられ、家族連れなどがひっきりなしに訪れました。

同地の管理は、「金ヶ浜壮年会」メンバーが中心に行っていますが、このたび、同会と平岩まちづくり協議会が連名で「美しい宮崎づくり未来につながる景観賞」の県知事表彰を授賞しました。活動の励みになります。夏はひまわり、秋はコスモス。金ヶ浜ビュー園地は花いっぱいです！



咲き誇るネモフィラ。まさに「青い絨毯」



太鼓台と提灯が祭りを盛り上げます

東郷^発 草原のような爽やかな香り カモミール栽培・販売

東郷まちづくり協議会では、ホーリーバジルやカモミールなどの薬草栽培・製品化により自主財源の確保に努めています。本年度も大勢の方々の協力のもと、54^キものカモミールを手摘みで丁寧に収穫しました。カモミールは、草原を思わせるような爽やかな香りが特徴。収穫後は、「カモミールジン」「カモミールティー」、「カモミール入りドーナツ」に製品化し、販売を行っています。

お見かけの際は、ぜひご購入を！

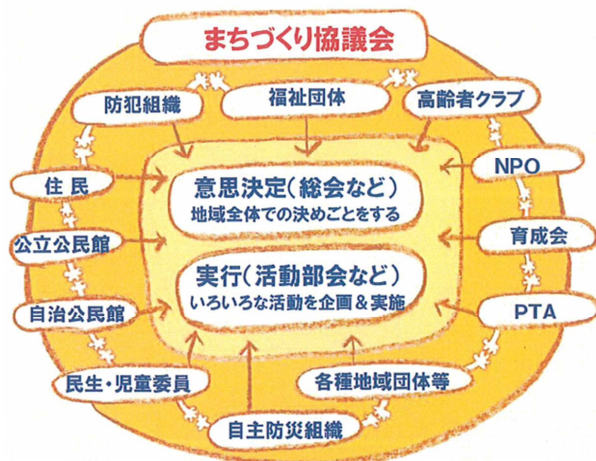


手摘みで丁寧に収穫しました

まちづくり協議会とは

住民が、地域の自治を進めるために、自主的につくることのできる組織です。

地域には、教育や福祉、防犯など、さまざまな分野で活動する団体があります。こうした団体で活動する住民を含めた多くの人々が、それぞれの経験や知恵、力を持ち寄って、自分たちの地域に必要な取組を話し合い、活動する組織が「まちづくり協議会」です。



研修会

あらゆる地域資源を活用しよう

循環の仕組みづくりを！

令和5年2月9日(木)に開催した「協働のまちづくり研修会」。

講師に日向市観光協会事務局次長の高木慎平様をお招きし、「地域づくりと観光誘客」をテーマに講演いただきました。

高木様は、日向市三大祭りのひとつ「細島みなと祭り」の実行委員会実行委員長として祭りの企画・運営に携わっておられ、祭りの歴史、課題やそれに向けた取組、地域との関

わりなどについて、ご自身の体験も交えて語られました。

また、インバウンドやマーケティングの視点からの時代の変化に合わせた観光PR、インバウンドを増やすために私たちにできること、地域資源の活用方法などの話に、参加者は熱心に聴き入っていました。価値観の異なる世界を知る、それを地域に還元し、地域活性化につなげる、大切なサイクルです！

協働のまちづくり研修会

市総合計画の基本理念の一つ「市民協働」を推進するため、市職員等が協働のまちづくりの基本的な考え方を改めて学ぶとともに、市内外で民間主導の地域づくりを実践している団体等から実践例を紹介していただくことで地域づくりの意識醸成を図ることを目的に開催。

今回は、市職員をはじめ、市民活動支援センター登録団体や NPO 法人等の皆さんが多数参加しました。



今回の講師 高木 慎平さま

一般社団法人日向市観光協会事務局次長
細島みなと祭り実行委員会実行委員長



David's ROOM



第13代日向市国際交流員
コンスタス・デイヴィッドさんの
活動紹介コーナー

日向市での生活も3年半余りが経過したデイヴィッドさん。

この期間はコロナ禍で公私ともになかなか自由な活動ができないのが悩みのタネでした。

ですが、社会活動が継続・再開される中で、国際交流活動も従来に近いかたちで行うことができるようになってきました。

この1年間は、「ハイカ」(本号12ページ参照)のイベントや英会話教室・派遣事業の取組、市職員向け「やさしい日本語」講座の開催、県国際交流協会事業への協力など、

さまざまな場面で活躍をしました。そして、デイヴィッドさんが温めていた「第三の場所」が、今年1月から動き出しました。

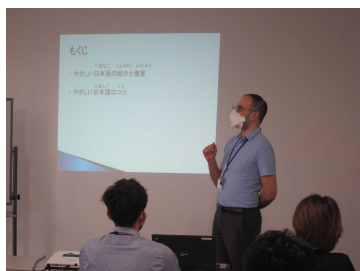
これは、「在住外国人が、自宅(第一)でもない、職場(第二)でもない、気軽に行ける第三の場所、ひと息つけるような空間をつくりたい」というアイデアを企画化したものです。

リラックスできるカフェ、市の中心部という立地条件、そして、歴代国際交流員との関係性から選ばれたのが「バックロー」さんです。

マスターの寺尾さんに相談したところ、快諾いただきました。トントン拍子で話が進んでいきました。

対象は、英語圏の外国人の方。月1回、少人数で集まってノンアルコールで飲食を楽しみながら、日向市での暮らしを話したり、日本語の勉強をしたいなあという内容です。

癒やしのコミュニティになるように、「ぼちぼち」と開いていく予定にしています。



英会話教室や派遣事業の
お問い合わせは地域コミュニティ課までどうぞ！

